

# 防災建築街区造成法下における建築事例の外形構成の変遷

中井邦夫研究室 渡辺 悠介

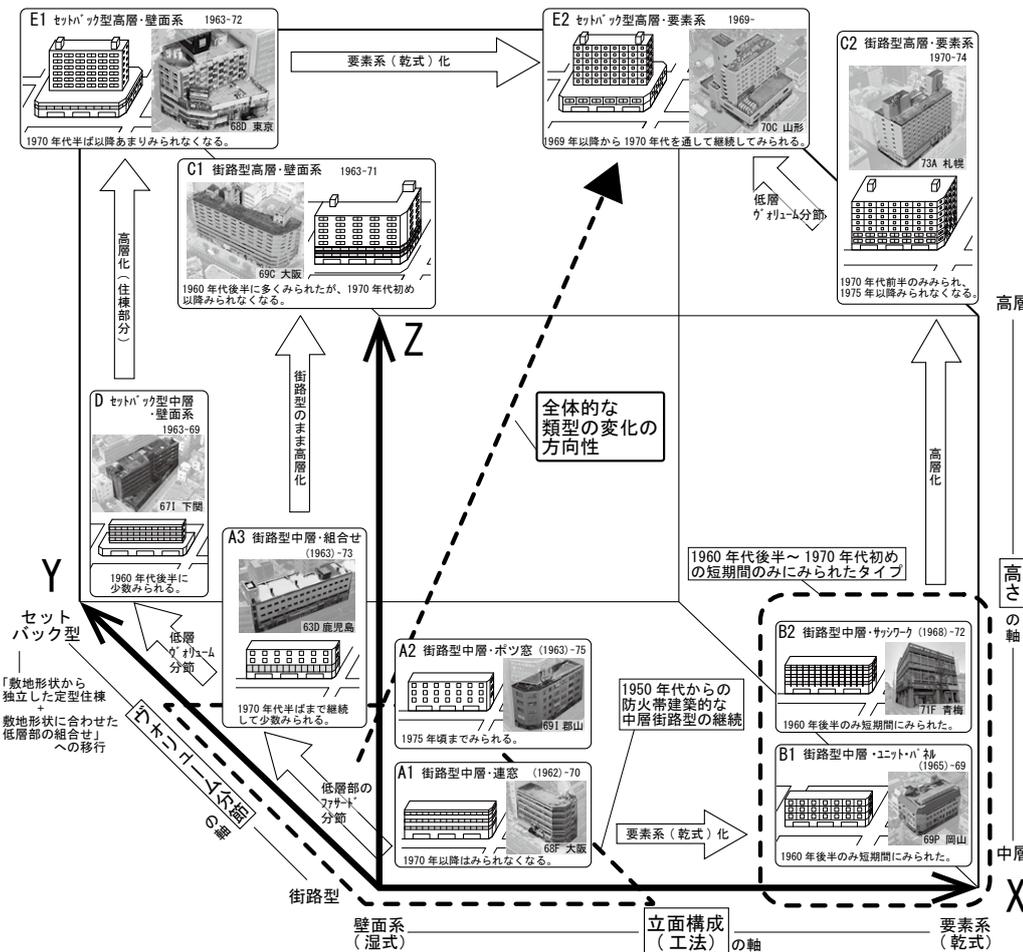
## 研究概要

都市計画制度や社会情勢の転換期にあたる防災建築街区造成法下における建築事例を対象に、ボリューム構成や建物高さ、立面構成などから外形構成類型を導き、各類型の年代的傾向から、造成法下における建築の外形構成の特徴と系譜を明らかにする。

## 研究目的

制度や社会の過渡期における都市建築の変容を明らかにすることで、今後のまちづくりや街みの検討に役立てることを目的とする。

## 研究成果



各類型の特徴と年代的傾向の分析結果から、類型間の差異をつくり出す契機に、(1) 立面やボリューム構成による上下層の分節、(2) 高層化、(3) 湿式から乾式への転換といった3点が考えられる。

外形構成についての全体的な変化の方向性として、50年代からの防火帯建築的な街路型中層建物を引き継いだ類型から、幾つかの過渡的な類型を経た後、街区のほぼ全体を一体的に開発したセットバック型で要素系の立面構成をもつ高層建物へと収束していくことを明らかにした。

## 苦労した点や感想など

見出した各類型の変遷を示す結論となるヴィジュアルの検討には少々苦労した。また、この研究を通して限定的な一時代のものではあるものの、都市建築の持つタイプの移り変わりは非常に興味深いものであったと思う。